

うじいえ 自然に親しむ会だより

編集・発行

うじいえ自然に親しむ会

事務局

さくら市ミュージアム

—荒井寛方記念館— 内

第10号

平成21年1月29日

嬉しかったこと

会長 加藤 啓三

本会、発足6年目の平成20年は、嬉しいことがいくつかありました。

6月の宇都宮大学農学部の野外授業で、大学生による鬼怒川河川敷のシナダレスズメガヤ抜き取り作業を皮切りに、10月、氏家中学校1年生の総合学習で、絶滅危惧種のシルビアシジミをとりあげ、シナダレスズメガヤの抜き取り作業に参加してくれたこと。

さらに、さくら清修高等学校(旧氏家高等学校)の環境教育講演会で、講師の高橋岳雄(栃木県環境森林部自然環境課主任)さんから、本会のシルビアシジミ保全活動を全校生徒に紹介されたこと。

12月、氏家小学校の2年生の学習発表会で、さくら市の天然記念物シルビアシジミが発表されたこと。

最後に、草川第二行政区の皆さんが、出前学び塾『鬼怒川の自然を学ぼう』をさくら市ミュージアム講座室で松田喬さんが撮影した昆虫・植物・野鳥の映像とお話を聞いたこと。

これらは6年間の本会の活動の成果が広がりつつあることを感じさせてくれました。

『親子フェスタ』では、松田喬さんが用意した『君も虫博士クイズ』に小学生が親子で問題に取り組んでいる姿が印象的でした。

『ゆめ! さくら博』では、渡辺剛さんが描いた『ぬり絵』に小学生や保育園児が、「色塗りが楽しい」と言って何回も挑戦していました。

また、押上地区の『水神会』では、3月にカワラノギクの種を播き、その後の手入れ(毎日シナダレスズメガヤや雑草取りをした)が功を奏し、9月には見事に花を咲かせました。合わせてミヤコグサの保護にも取り組み、10月に、東京大学の須田真一先生に現地を見ていただいたところ、シルビアシジミの卵と幼虫が見られ、ここにもシルビアシジミがしっかり生息していることが確認されました。須田先生から、「10年前の鬼怒川河川敷に戻ったようだ」と喜ばれました。(後記、矢澤修太郎さんの「鬼怒の河原で遊ぶ」参照)

11月、『消える日本の自然』鷲谷いづみ編(恒星社厚生閣発行)に、東京大学須田真一・西廣淳両先生が、『鬼怒川流域の希少種を守る』と題して本会の活動を、「よその地区の参考に」と紹介していただきました。

第6回定期総会報告と講演会

平成20年6月8日(日)午後1時15分からさくら市ミュージアム―荒井寛方記念館―講座室において、平成20年度うじえ自然に親しむ会総会が開催されました。

平成19年度事業報告・決算報告・会計監査報告、平成20年度事業計画・予算(案)及び新役員が下記のとおり承認されました。

また総会終了後、本会顧問で栃木県シダの会会長、栃木県植物同好会副会長の田代俊夫先生による記念講演「私とシダ」が開催されました。田代先生におかれましては、興味深い貴重なお話ありがとうございました。



【平成19年度決算】 収入の部

会費	1,000円×162人 10,000円×1人	172,000円
助成金	ロータリークラブ	50,000円
雑収入	寄付金等	73,106円
繰越金	18年度繰越金	816円
計		295,922円

支出の部

活動費	パンフレット バス借用費等	219,904円
会報費	9号発行	27,000円
事務費	切手・はがき等	46,940円
計		293,844円

【平成20年度予算】 収入の部

会費	1,000円×170人	170,000円
助成金	関東建設弘済会 170,000円 子どもゆめ基金 127,000円	297,000円
雑収入	寄付金等	10,922円
繰越金	19年度繰越金	2,078円
計		480,000円

支出の部

活動費	パンフレット 講師謝礼等	406,000円
会報費	10号発行	27,000円
事務費	切手・はがき等	47,000円
計		480,000円

【平成20年度役員】

顧問	中村和夫 佐藤馨 田代俊夫 葛谷健 中野英男
会長	加藤啓三
副会長	田代英夫 松田喬
理事	佐藤康夫 石塚賢二 菊地庸夫 佐藤裕 阿久津隆 丸山征寿 渡辺剛
監事	薄井敬二 福田哲
会計	船津幸夫 (笠倉理江)
庶務	佃清司 竹内浩之

トンボの観察会

理事 阿久津 隆

トンボの観察会を8月9日(土) さくら市ゆうゆうパークにおいて開催した。青空の下、参加者は約30名。副会長の松田氏の案内で水辺を散策しながらの観察会だ。

はじめに水田のわきを流れている小さな小川でコバネアオイトトンボの観察。県内でも局所的にしか生息していない珍しい種だが、松田氏が今年当地での生息を確認していた。のぞきこむと流れに沿って飛びながらホバリングする華奢な姿が複数確認できた。昆虫は捕虫網で捕まえて、手の中でよく確認することも大切ではあるが、このトンボは個体数も限られているので、とらないで観察するよう注意を促す。マイコアカネやナツアカネ、ハグロトンボなどを確認。とてもいい小川だ、と感心する。昔はどこにでもあった小さな小川。水草が茂り、底は泥や砂で、ゆったりと流れる。家のまわりにヤゴはもちろん、メダカやシマドジョウ、タガメやタニシ、ホタルたちがいたのは、そう昔のことではない。今、こんな小川が市内にはたしていくつ残されているのか。

公園内の湧水池では滑空するギンヤンマに声が挙がる。小川をたどってシオカラトンボやシオヤトンボ、アジアイトトンボなどを観察。と、上空をチョウトンボが飛翔していた。あ、と声が挙がるたびに子どもたちは駆け寄り、大人たちは講師の説明に感心する。参加者は地元で生息しているトンボを目や手で確認し、トンボの生息環境も実感したことで水環境について考えるきっかけとしてもよい機会になったようだ。

よい水環境さえ残っていれば、見られるトンボの種類も豊富になる。僕たちは羽化したトンボの種類を見て、水環境を想像することができる。でも、ヤゴたちが生きる水の中の生態系にも思いを巡らすことも必要だ。そこにいろいろな生きものが生息してはじめて、ヤゴが暮らすことも成り立つということ。自然環境はいろんな生きもののかかわりを考えながら見ていかなくては、と改めて思う観察会であった。



観察会風景



マイコアカネ

盛り上がったホタル観察会

～6月27日(金)19:30～20:30「ゆうゆうパーク」内の小川～

副会長 田代 英夫

この夜は、予想をはるかに超えるホタルが見られて、大いに盛り上がりました。その数は、50匹を超えていたと思います。参加者の背中にとまったり、子供の足元に来るホタルもありました。最近のホタル観察会では、経験をしたことのない興奮と感激の時間となりました。参加した方たち(34名)も、満足してくれたものと思っています。

実はこの観察会を実施するにあたっては、加藤会長も私も、それぞれに2度ほど下見をしました。そのときは、4、5匹のホタルしか出ませんでした。本番の時に、これと同じような状況だったらどうしようかと、内心びくびくしていたのです。天に感謝です。



本日のスター「ヘイケホタル」



足下に来たホタルに歓声を上げる参加者

神秘的なセミの羽化

～8月9日(土)18:50～20:20 ミュージアム玄関付近の樹木～

副会長 田代 英夫

懐中電灯の光の先に、突然、殻から出ようとしている白い柔らかそうなセミの本体が写し出されました。その神秘的な光景は、子供の頃に体験したかすかな記憶を呼び覚ましてくれました。

「ここにもいるよ、ここにも」という声が、いくつかの箇所から上がりました。その度に、闇を走る子供の足音が響きました。皆、大なり小なり興奮していました。大人も子供も、参加者(27名)全員もっとその場にいたいという思いを抱きつつ、夜の安全を考慮して解散となりました。来年も、是非やってみたいと強く思いました。



セミの幼虫を見つける参加者



メタセコイヤの葉先で羽化したアブラゼミ

鬼怒川河川敷巡視活動の報告

会長 加藤 啓三

巡視活動は、6月1日から10月13日まで、135日間、今年初めてさくら市教育委員会発行の黄色い腕章を付けて、シルビアシジミ保全のため、28名の皆さんにご協力いただきました。延べで、927回巡視したことになり、1日平均6.9人の人が鬼怒川河川敷に足を運んでいただきました。お陰様で不法な採集者への抑止効果が上がったように感じました。有り難うございました。

10月5日には、さくら警察署が市民からの通報を受けてパトロールカーが河川敷に出動しました。河川敷に居たのは、埼玉県から来た2人組のツマグロキチョウ採集者でした。

しかし、国土交通省職員の話では、まだ、シルビアシジミを採集にきている人がいるようですので、来年も巡視活動を続けたいと思います。宜しくお願いいたします。

以上、簡単ですが巡視活動についての報告といたします。

「ゆめ！さくら博 2008」に出店して

副会長 松田 喬

さくら市の生涯学習の最大イベントである「ゆめ！さくら博 2008」が10月25日（土）・26日（日）に開催されました。本会では「守ろう！さくら市の貴重な自然」というテーマの写真展示を氏家体育館で行いました。内容は市内の鬼怒川河川敷や里山で見られる稀少な昆虫と植物の写真約50点です。

展示した写真の中で、シルビアシジミは特に皆さんの関心が高く、すでに名前は知っていて「これがシルビアシジミですか」と反応する方が多く、一般市民にかなり浸透しているという印象を持ちました。もう一つの天然記念物「アカガネネクイハムシ」については、これまでほとんど写真が紹介されたことがなく、初めて知った方が多かったです。

8月の「家族フェスタ」の時に好評だったクイズ「挑戦！こども虫博士」は、子供の来場者が少なかったことは残念でした。その一方で、渡辺剛さんの労作の「ぬり絵」（シルビアシジミやミヤコグサなどの動植物）はとても好評で、たくさんの子供たちが力作を仕上げてくれました。

反省として、「写真だけでは地味なので標本や生きた昆虫なども展示できるとよい」、「写真の説明にもう少し工夫が必要ではないか」といったご意見もいただいています。来年度は、さらに工夫してより良いものを目指したいと思います。

前日の会場の設営・準備から、当日の説明・案内、終了後の片づけまで、多くの会員の方々に手伝いいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

お丸山公園のヤマブキソウ

顧問 田代 俊夫

お丸山公園は、西に荒川、東に内川の清流、その間に連なる喜連川丘陵帯の南端、喜連川城址の一角にある。ここの本丸跡付近の東側に標高差 約 50 メートルほどの急斜面があり、ここにヤマツツジ 1,000 余株が植栽されていて、この中にヤマブキソウ大群落がある。4月下旬になると一斉に咲き始め、黄金色の花で斜面は埋められ見事な景観をつくる。この花を觀賞するには喜連川神社から始まる遊歩道を進むのが



ベストであろう。平坦な遊歩道を歩きながら本丸跡の山頂を見上げると、足元から咲くヤマブキソウを見ることができ、下草が綺麗に刈り取られているので見通しよく上の方まで観察できる。ゆっくり進みながらあたりを注意してみると、春を彩る沢山の野草も観察できる。

県内最大規模を誇るヤマブキソウ群落

紫色の花をつけるムラサキケマン、ジロボウエンゴサク、深山の陰地に咲くミヤマハコベなどは珍しく、イチリンソウ、ニリンソウもある。タチツボスミレ、マルバスマミレ、エイザンスミレ、フモトスミレ、アオイスミレなどのスミレの一群。クサノオウ、エンレイソウ、マムシグサなど盛りだくさんの花がある。遊歩道は途中からゆるい上り坂となりへヤピン形に折れ曲がり、ここからは今まで見上げて鑑賞していた花を見下ろすことになる。さらに進むと道はヤマツツジの植栽地に続き、今通ってきた遊歩道が下方に見えるようになり、今度はヤマブキソウを上より眺めることになるが、同じ花でも見上げるのと見下ろすのでは趣が全く違うのは不思議である。真っ赤に膨らんだヤマツツジは蕾が今にもはじけそうで美しい。

ヤマブキソウは、同じ時期に里山の林縁に黄金色の花を沢山つけるヤマブキに花の形や色が似ているのでつけられた名前であるが、両者は植物学的に全く関係ない。ヤマブキはバラ科でヤマブキソウはケシ科である。大きな違いはヤマブキの花弁は 5 枚あるのに対しヤマブキソウの花弁は 4 枚である。またここには葉の細いヤマブキソウの品種でホソバヤマブキソウの 1 群があるが、これは更に珍しいものである。

お丸山公園のヤマブキソウの群落は、県内では一番規模が大きいものではないだろうか。大切にしておきたい貴重な場所である。

鬼怒の河原で遊ぶ

押上水神会会員・本会員 矢澤修太郎

私が住むさくら市押上は、鬼怒川との係わりが深い地区です。その河原に先人達も見ていたであろうカワラノギクを育ててみようということになりました。

平成20年3月28日、カワラノギクの種まき作業（34名参加）。元国土交通省氏家出張所の宇梶実所長さんより種をいただきました。作業は1時間ほどで終了しました。

2日後には、ロープ囲いが出来ていました。約1反5畝（50m×30m）。宇梶所長さんが作ってくれたとのこと、カワラノギク圃（はたけ）と呼ぶことにしました。

6月10日、ポツリポツリと小さな芽が出ていました。初めて見る、元気なカワラノギクの誕生です。まずはひと安心しました。

★ 先人の 住みし辺りの鬼怒河原 カワラノギクが いま甦る

7月12日、草取り作業（26名参加）。1時間30分程でロープ内および周辺がきれいになりました。それにしてもシナダレスズメガヤの凄さには驚きました。

草取りは、新しい発見があります。抜こうとして身を低くするとミヤコグサが見つかります。ミヤコグサを発見すると、石で丸囲いを作ります。これを倉といいます。見つけるたびに倉を作っていくのも楽しいことです。他にもいろんな草に出合いました。カワラケツメイ・カワラニガナ・カワラハハコ・カワラヨモギ・ヤハズソウ・ハタガヤ等々、みな可愛い草達です。夏も終わりになった頃、シナダレスズメガヤが消えました。1反5畝のこの圃場には、色々な草を育てる予定です。

さらに南側の同じ位の面積の圃場は、大きな株のシナダレスズメガヤから順に抜いていきましたが抜ききれませんでした。しかし、ミヤコグサは沢山あって、62個の倉が出来ました。ミヤコグサ圃とでも・・・・・・・・。

9月24日、待望のカワラノギクの花が咲きました。立ち姿・形とも良く、花は薄紫の花弁が20枚前後、花心は黄色。清楚で気品があり、これぞ日本の花という美しさです。

★ 昔ぐべきや カワラノギクの咲きしこと



押上地区のカワラノギク

11月5日、種採り開始。12月中旬まで有り余るほど採りました。

11月26日、標柱石94.75kmから上流100m、下流100m、幅30mの頑丈な柵が作られました。これまでにない嬉しさがこみあげてきました。四輪駆動車から花々が守られ、1反5畝の圃場が4枚になりました。国土交通省氏家出張所の齋藤哲夫所長さんには心より御礼を申し上げます。本当に有り難うございました。

★ 老いてなき 嬉しさはずむこともある 鬼怒の河原の 春夏秋冬

